

田畑も生活もすべて自分たちの手で
都会を離れてストレスフリーな暮らし



那智勝浦町
壽海 千鶴さん
CHIZURU JYUKAI
大阪から移住

ホテルや飲食店で働いた経験を生かして始めた農家民泊「Jugemu」。「薪割りや、収穫など農家ならではの体験を楽しんでもらえれば」と話す。

本当の意味での幸せ
満ち足りた自給自足の日々



自給自足をめざし、稲作のほか裏庭の小さな畑で、ズッキーニやゴーヤ、タイ料理に欠かせないレモングラスなどを栽培している。6羽の鶏が産む卵も貴重な恵みだ。「今年は獣害がひどかったですが、収穫できたときは、苦勞も吹き飛びます」と千鶴さん。薪割りは真也さんの仕事で、かまどや風呂炊きに欠かせない燃料だ。もちろん薪割り体験もおすすめ!!

農家民泊Jugemu
住所 / 東牟婁郡那智勝浦町大野1246
電話 / 0735-30-1088
http://irokawamura.com/index.html



かまどに薪を焼べてご飯を炊き上げる。火をつけるのも手慣れたもの。



外国人客にも評判の
田舎ならではのおもてなし

古民家の離れの2階を客室に改造。木の温もりと香りが心地よい。民泊仲介サイトを利用してから、外国人観光客も増えたという。料理はすべて千鶴さんの手作り。ゴーヤの肉詰めから野菜炒め、お漬物まで、自家製を中心に地元産の新鮮な野菜を使っている。



かまど炊きのごはんが、もうもうと湯気を上げる。炊きあがるまで手間はかかるが、一口食べれば納得。「初めて見た」と驚く人や、かまど炊きを実際に体験する宿泊者も多い。



うす雲のかかる、はるか山々。どこまでも続く段々畑。お米やお茶など狭い耕地を有効に利用する人々の知恵の結晶だ。

わかやまでの日々の暮らしとまちブラ日記

色川の景色は
どこかしこも
なんだが可愛い



急な石段を登って、山の
中腹にある楞嚴(りょうごん)
寺へ。お二人の一番
のお気に入りの場所。



急な石段を登って、山の
中腹にある楞嚴(りょうごん)
寺へ。お二人の一番
のお気に入りの場所。



タイ料理に使用するハーブ
ももちろん自家製。



朝に夕に、住居裏の畑に続くあぜ道を行き来する。野ウサギやイタチに荒らされることも多く、目が離せない。裏山に出るときは黒板に、留守を告げるメッセージを残す。



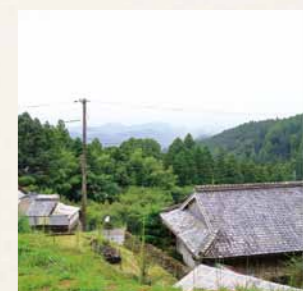
受け入れ施策 Come on!

和歌山県では移住者をサポートするため、さまざまな支援制度を用意している。農家民泊を運営する壽海さん夫妻が利用したのは、移住者起業補助金(最大100万円)と空き家改修補助金(最大80万円)。古いかまどをできるように修繕したほか、ついでに小屋を風呂場に改造、トイレも簡易水洗に。「思ったより改修にお金がかかってしまったので、助かりました」。詳しくは→<http://www.wakayamagurashi.jp/how-to/support/>

紀伊半島東南端に位置する那智勝浦町。にぎわう漁港をあとにし、つづら折れの山道を車で走ること約1時間、もやの中から青い段々畑が現れた。傾斜面に沿って佇む木造の民家が軒を連ね、農家民泊「Jugemu(じゅげむ)」の看板が目飛び込んできた。「どうせ田舎暮らしをするなら、『ど』のつく田舎に住もう、と。ちよつとやそつでは街に出られないところが気に入りました」。

同町色川地区でJugemuを営む壽海千鶴さんと真也さん夫妻は、長野県の上高地のホテルで働いていた当時に知り合い結婚。その後、大阪市内で3年間暮らしながら、「昼も夜もない都会の雑踏になじめず」移住を計画。小豆島なども見学したが、「街に近くしつくりこなかった」。そんなとき、知人の紹介で色川に。以前、タイに暮らしたことがある千鶴さんは、「棚田の風景がタイに似ている」と気が入りました。

色川地区は、住民約360人のうち半数近くが移住者という全国的にも珍しい地域。有機農業などをめざして都会からやってきた人も多く、すぐに溶け込むことができた。「ぬかの漬け方を教えてくれたり、野菜を持ってきてくれたり、近所の人が気さくに声をかけてくれるのがうれしい」と千鶴さん。宿を始めて2年。農機が入れない畑や水田を、手作業で耕してきた。夏は茶畑、冬はゆず摘みの手伝いに。「もとは色白でしゃべりやすかった」という真也さんも農作業などですっかり日焼けし、シャツからたくましい腕がのぞく。「田舎暮らしという、のんびりしたイメージがあると思いますが、天候や獣害のことなど、やらなくてはいけないことが常にいっぱい。その分、都会では得られない充実感があります」と顔をほころばせた。



都会暮らしの末に2人でたどりついたシンプルライフ。「火は薪、水はわき水を使うので、ガス代と水道代はゼロ。何もいなくても、都会にいたときよりずっと豊かになった気がします」と仲むつまじく笑う。



不意に現れた「蛸(こうもり)街道」の看板。ネーミングに好奇心がかきたられる。そこかしこに、せせらぎが。「心地よい水音」は千鶴さんのお気に入りの声。



地元の勝浦漁港は、延縄(はえなわ)漁法による生鮮マグロの水揚げ日本一といわれている。那智の滝で知られる熊野那智大社、那智山青岸渡寺へ車で1時間ほどだ。

